

委員会
レポート

総務教育委員会

公共交通利用者を
増やす工夫を

令和3年
11月9日
協議会開催

交通弱者の救済とい

うことで、民間では利益の出ない事業を行政が取り組む福祉政策ではあるが、費用対効果を考慮する必要もある。

問 藤田直行タクシーの本数や乗り場を増やしてなど、利便性向上の声もあるが。

答 運行をいろいろシユミレーションし、委託業者と調整している。

問 費用対効果からも理解される運営を。

答 認知度を高めながら、チョイソコと同じく実証実験を行なっていく。

逆川区の防災拠点
新集会場建設

逆川区の多くは、土砂災害警戒区域に指定されている。防災力の高い集会施設を整備する。

問 建設に地元負担金はないか。

答 町が施工して町が所有する。地元負担はない。

問 通常の維持管理はどこがするのか。

答 地元で管理していただく。

問 深溝小の教室増設案を検討

問 プールを無くしてその跡に教室を造るとあるが、水泳の間はどうするのか。

答 民間の屋内プールで授業する事を検討している。専門のインストラクターに指導してもらえるのも良い。

問 建物が複雑になって災害発生時の避難が心配になるが。

答 避難訓練で、災害時の行動を児童に指導してもらうよう、先生方にも願います。(その他17項目を協議)

管内視察

スーパーシティ構想
予定地などを視察

令和3年
10月1日



スーパーシティ構想の説明を受ける

スーパーシティ構想を進めている、深溝東光寺地区と、企画部所管の多文化共生拠点整備事業を進める、旧JA豊坂支店と、消防署所管の防災倉庫2カ所を視察した。

◇スーパーシティ構想の概要

三ヶ根駅エリアの丘陵地にて、広範囲に渡る耕作放棄地を活用し、防災・減災のスーパーシティ構想を産官学金連携により提案している。

◇多文化共生拠点整備

町民と外国籍住民が日常的に交流できるコミュニティスペースや国際交流協会(KIA)の事務所と教育相談室などが入る。



野場防災倉庫

◇防災倉庫

野場防災倉庫は、町内10カ所の防災倉庫の補充用の備蓄品を整備している。他、北部防災倉庫を視察した。

委員会
レポート

福祉産業建設委員会

コンビニなど 交付サービスを開始

令和3年
11月8日
協議会開催

マイナンバーを利用して、全国のコンビニエンスストア等に設置されているマルチコピー機で、住民票の写し、印鑑登録証明書など取得できるサービスを、令和4年3月1日から開始する。

マルチコピー機設置のコンビニエンスストア、ショッピングセンター、ドラッグストア、郵便局などで利用できる。

交付手数料は、住民票の写し、印鑑登録証明書など200円、戸籍証明書450円。

問 町内でマルチコピー機がある店舗は20カ所あるコンビニで利用できる。

問 安全対策で、通信内容の暗号化と証明データの削除は。

答 証明書が発行された時点で自動的に



コンビニで交付予定 (6:30～23:00)

消え、個人情報漏えい防止対策が講じられる。

坂崎保育園の大規模改修

昭和63年に改築して以来33年が経過。老朽化が著しいため、大規模な改修整備を行う。

- ◇令和4年度 屋外
- ◇令和5年度 保育室
- ◇令和6年度 調理室

問 3年度に分ける理由は。

答 1年中工事していると、子どもにストレスがかかるため。

(その他13項目を協議)

管内視察

岡崎市中央クリーンセンターなど視察

令和3年
11月26日



岡崎市中央クリーンセンターの視察

11月26日、岡崎市中央クリーンセンター、西尾市クリーンセンター、矢作川流域下水道浄化センターを視察。

◇岡崎市中央クリーンセンター

処理能力は年間10万6400t。処理方法はシャフト炉式ガス化溶融施設。循環型社会めざし、ごみ発電による予熱エネルギーを活用し、スラグ・メタルの再資源化。幸田町は年間8200tの可燃

ごみを搬入し、焼却している。

◇西尾市クリーンセンター

次期広域ごみ処理施設(岡崎市・西尾市・幸田町)の建設予定地は、現西尾市クリーンセンター敷地内とすることが確認されている。処理能力は年間約8万6600tのごみ焼却施設。令和12年3月竣工予定。

◇矢作川流域下水道・矢作川浄化センター

矢作川流域下水道は岡崎市、豊田市、安城市、西尾市、幸田町を処理区域とし、4市1町の下水道普及率は、80.6%。幸田幹線の併用開始は、平成13年度から。平成28年度に汚泥消化タンクが運転開始。下水汚泥の減量化とバイオガスの有効利用をしている。